

ホーム /
CSRへの取り組み

[このページへのご意見](#)
[このページを印刷](#)

CSRへの取り組み

2007年11月21日更新

イントロダクション

▶ イントロダクション

CSRに取り組むルネサス、その全体像を把握することができます。

▶ ルネサスのCSR

CSRに対するルネサスの基本的姿勢と考え方をご理解いただけます。

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

▶ 法令遵守を超えて

法令や国際ルールへの遵守はもちろん、高い企業倫理の下での経営を目指します。

▶ 個人の尊重に向けて

社員の安全、健康を考えるとともに、働きやすい職場づくりを考えます。

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

▶ 環境へのやさしさを目指して

地球環境を考えた製品づくりから、社員ひとり一人の環境保全への取り組みまで。

▶ 暮らしやすい社会のために

社会の一員として、地域社会に貢献するルネサスの姿が、ここにあります。

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

▶ ステークホルダー・コメント

識者の方々よりルネサスにいただいた貴重なご意見をご紹介します。

編集方針・掲載対象範囲

編集方針・掲載対象範囲 [イントロダクション](#)[ステークホルダー・コメント](#)[ルネサスのCSR](#)[個人の尊重に向けて](#)[暮らしやすい社会のために](#)[法令遵守を超えて](#)[環境への取り組み](#)**◆編集方針**

当Webサイトの編集に際しては、GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティリポーティングガイドライン2006」および環境省「環境報告書ガイドライン(2003年版)」を参考に作成しました。お客様、お取引先、政府・自治体関係、ルネサスグループの事業所の近隣にお住まいの方、ルネサスグループの社員等に、ルネサスのCSRに対する取り組みをご理解いただくために、読みやすく、わかりやすい記述を心がけて作成しています。

特に、GRIガイドラインが改訂された今年度は、新しいガイドラインに可能な限り準拠した報告を行うように留意しました。

当Webサイトでは、社会・経済・環境の3分野にわたるCSR活動について報告していますが、当社の環境活動につきましては、別途「ルネサステクノロジー環境レポート2007」を冊子で発行し、環境活動にフォーカスした内容を詳しく報告しております。

◆報告対象範囲

株式会社ルネサス テクノロジーおよびグループ会社

◆報告対象期間

2006年4月1日から2007年3月31日

(一部掲載項目に関しては2007年7月までの活動を掲載)

◆次回報告予定

2008年9月を予定しています。

ただし、業績その他の項目につき変更がある場合には適宜更新いたします。

イントロダクション

- トップメッセージ
- 会社概要
- 事業状況
- ステークホルダーとの
かかわり
- ルネサスのCSR
- 法令遵守を超えて
- 個人の尊重に向けて
- 環境への取り組み
- 暮らしやすい社会のため
- ステークホルダー・コメント

イントロダクション

RENESAS CSR REPORT 2007

CSRに取り組むルネサス、その全体像を把握することができます。

トップメッセージ

「お客様や社会からの信頼が“ルネサス”というブランドを形づくる」

会社概要

ルネサステクノロジーの会社概要です。

事業状況

近年の売上高、利益等の推移とルネサスグループの構成をご紹介します。

ステークホルダーとのかかわり

あらゆるステークホルダーと理解しあい、スムーズなコミュニケーションを図るために……。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

イントロダクション

トップメッセージ

会社概要

事業状況

ステークホルダーとの
かわり

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のため

ステークホルダー・コメント

ごあいさつ

TOP MESSAGE

お客様や社会からの信頼が “ルネサス”という ブランドを形づくる

代表取締役会長&CEO 伊藤 達



ユビキタス時代の到来とともに

半導体を支える情報技術の世界は、その内側にいる私たちにとっても驚くほどの速さで進歩し、まさに手の届くところに「ユビキタス時代」の到来が迫っています。そして、この「ユビキタス」に象徴される機能やテクノロジーへの期待と同時に、「環境性」あるいは「安全性」という、もうひとつのベクトルがマーケットだけでなく社会全体を通じて求められています。

当社は、こうした社会の動きや要求を先取りし、ソリューション提案力やシステム対応力を底上げして当社の明確なコアコンピタンスとして確立することで、これからも持続して半導体マーケット、そして暮らしやすい社会に貢献していきたいと考えています。

課題は変化への対応と継続性

今、「CSR(企業の社会的責任)」は、事業活動を行う上で必須の要件になっています。CSRは企業がそのブランドを形作っていく上で骨格ともなる非常に重要な要素です。私自身、CSRを追求することが企業のブランド力向上に繋がり、さらには企業の発展にそのまま繋がるものであると、常に緊張感を持ってCSR活動に臨んでいます。そして「自ら範を示す」ことをトップとして常に心掛けています。

CSRおよび環境保全活動に「ゴール」や「完全」はありません。常に継続させながら少しずつでも改善していくべきものですので、課題はいつも存在しています。そのひとつひとつが当社にとってチャレンジングな課題です。例えばRoHSなども欧州版に続いて中国版が制定されました。それにいかに対応していくか。また、お客様のグリーン調達にともなう熱が入ってきていますので、こうしたことに適切に対応していくことが大切です。

当社は、社会から期待されていることに少しでも前倒しで対応するべく取り組んでおり、様々な活動が一歩一歩ではありますが、計画通りに進んでいると自負しています。

個人の尊厳と尊重を通じた「人づくり」を

ステークホルダー別の対応では、「お客様」への対応は企業として基本中の基本ですので、ルネサスブランドを形作ってくれるものとして「社員」に注目しています。個人の尊厳や尊重が実感でき、生き活きと働くことができる会社でありたいと考えていますし、社員の満足度は事業の発展に直結する要素ですから、その意味でも非常に大切なことです。

また個人の尊重と併せ、CSRを視野に入れた人材育成にも力を入れています。我々の事業そのものが非常に社会的な意味があるということ、そして社会に貢献していくことが事業活動の重要な核を担っていること、この二つをルネサスの全ての社員に理解してもらいたい。そのための教育にも一貫して取り組んでいます。

信頼される企業であるために必要なこと

ルネサスは4年前の創業にあたって、「信頼される企業として私たちは、信頼される経営を行い、成長し続けたい」ということを企業ビジョンの一つとして掲げました。社会から信頼される企業であるためには、様々な側面が必要であると思いますが、もっとも基本的なことはやはりコンプライアンスです。企業統治(ガバナンス)、経営の透明性なども含め、コンプライアンス意識がしっかりしている経営が基本になると確信しています。お客様や企業から信頼され続けるというのは、決して簡単ではありませんが、常にコンプライアンスを意識して一つひとついい方向へ向けていこうと努力を続けています。

CSRや環境活動はルネサスの事業活動の根幹、ドライビングフォースであると認識し、これからもその姿勢を継続して真摯に取り組んでまいります。

代表取締役会長&CEO 伊藤 達

イントロダクション

トップメッセージ

会社概要

事業状況

ステークホルダーとの
かかわり

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のため

ステークホルダー・コメント

会社概要

- 会社名 株式会社ルネサス テクノジ (英文名称: Renesas Technology Corp.)
- 本社所在地 東京都千代田区大手町二丁目6番2号 (日本ビル)
- 資本金 500億円 (株式会社日立製作所55% 三菱電機株式会社45%)
- 設立日 2003年4月1日
- 事業内容 マイコン・ロジック・アナログ等のシステムLSI、ディスクリート半導体、SRAM等のメモリ製品の開発、設計、製造、販売、サービスの提供
- 売上高 9,526億円 <2006年度(連結)>
- 従業員数 26,500人 <2007年3月現在(連結)>
- 代表者 会長&CEO 伊藤 達、社長&COO 塚本 克博
- グループ会社 国内21社* 海外23社*

* 2008年4月1日現在

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

ホーム / CSRへの取り組み / イントロダクション / **事業状況**

[このページへのご意見](#)
[このページを印刷](#)

イントロダクション

トップメッセージ

会社概要

事業状況

ステークホルダーとの
かかわり

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

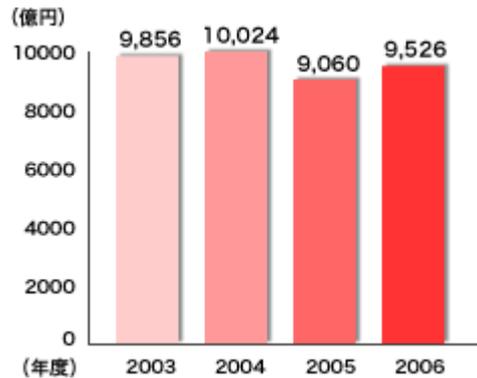
環境への取り組み

暮らしやすい社会のため

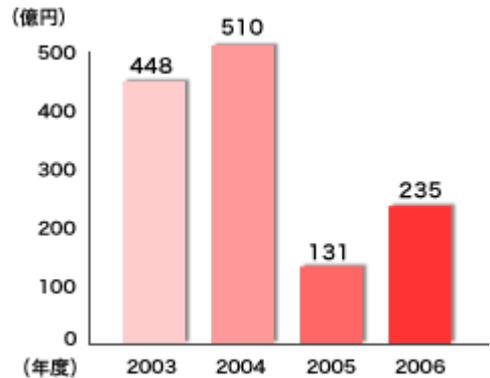
ステークホルダー・コメント

事業状況

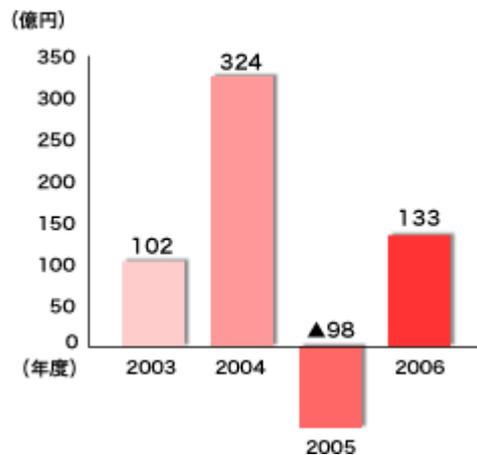
■ 売上高



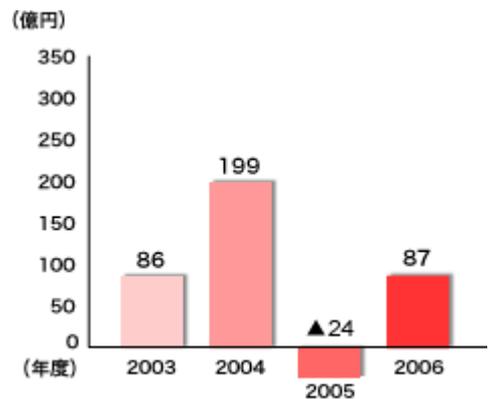
■ 営業利益



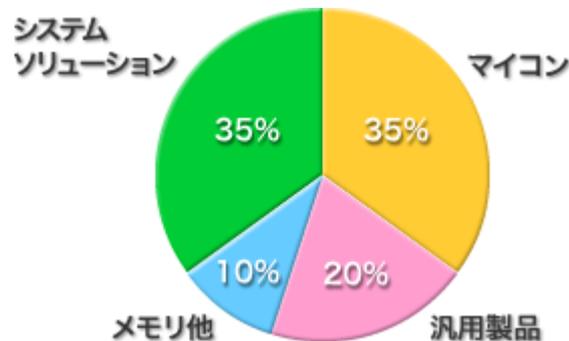
■ 税引前利益



■ 純利益



■ 製品分野別売上構成



ルネサスグループについて

ルネサスグループは、株式会社ルネサステクノロジを本体とし、「販売」、「設計・応用技術」、「製造」、「事業」、「エンジニアリングサービス」、「情報システムサービス」という6つのカテゴリーのグループ会社で構成されています。

■ 国内ネットワーク

● 株式会社ルネサス テクノロジ

(販売会社)

- 株式会社ルネサス販売
- 株式会社ルネサスデバイス販売

(設計・応用技術会社)

- 株式会社ルネサスソリューションズ
- 株式会社ルネサスデザイン
- キーストリーム株式会社

(製造会社)

- 株式会社ルネサス北日本セミコンダクタ
- 北海電子株式会社
- 羽黒電子株式会社
- 株式会社ルネサス東日本セミコンダクタ
- 株式会社ルネサスハイコンポーネンツ
- 株式会社ルネサスハイクオリティーズ
- 株式会社ルネサス柳井セミコンダクタ
- 株式会社ルネサス那珂セミコンダクタ
- 株式会社ルネサス長野セミコンダクタ
- 株式会社ルネサス九州セミコンダクタ

(事業会社)

- 株式会社ルネサスエスピードライブ

(エンジニアリングサービス)

- 株式会社ルネサスセミコンダクタエンジニアリング
- 株式会社ルネサス高崎セミコン
- 株式会社ルネサス小平セミコン
- 株式会社ルネサスクオリティエンジニアリング

(情報システムサービス)

- 株式会社ルナセンチス情報サービス

■海外ネットワーク

Administration Companies

- China -

Renesas Technology (China) Co., Ltd.

Sales Offices

- Canada -

Renesas Technology Canada Limited

- China -

Renesas Technology (Shanghai) Co., Ltd.

Renesas Technology Hong Kong Ltd.

Renesas Technology Taiwan Co., Ltd.

- Europe -

Renesas Technology Europe Limited

Renesas Technology Europe GmbH

- Korea -

Renesas Technology Korea Co., Ltd.

- Malaysia -

Renesas Technology Malaysia Sdn. Bhd.

- Singapore -

Renesas Technology Singapore Pte. Ltd.

- U.S.A. -

Renesas Technology America, Inc.

Design and Application Technologies Companies

- China -

Renesas Semiconductor Design (Beijing) Co., Ltd.

Renesas System Solutions (Beijing) Co., Ltd.

Renesas System Solutions Hong Kong Ltd.

- France -

Renesas Design France S.A.S

- Singapore -

Renesas System Solutions Asia Pte. Ltd.

- Vietnam -

Renesas Design Viet Nam Co., Ltd.

Manufacturing Companies

- China -

Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd.

Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.

- Germany -
Renesas Semiconductor Europe (Landshut) GmbH
- Malaysia -
Renesas Semiconductor (Malaysia) Sdn. Bhd.
Renesas Semiconductor Technology (Malaysia) Sdn. Bhd.
Renesas Semiconductor (Kedah) Sdn. Bhd.

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

[上へ](#)

ホーム / CSRへの取り組み / イントロダクション /
ステークホルダーとのかかわり

このページへのご意見
このページを印刷

イントロダクション

トップメッセージ

会社概要

事業状況

ステークホルダーとのかかわり

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

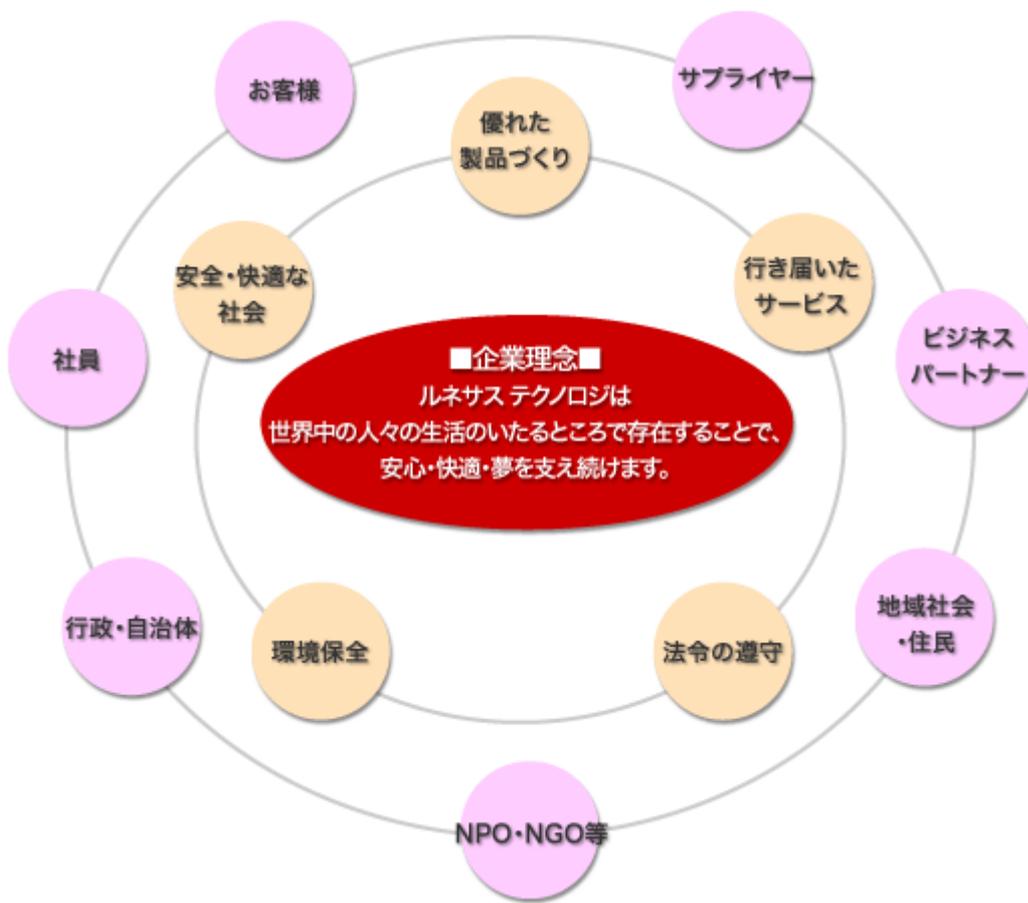
暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

ステークホルダーとのかかわり

ルネサスは、様々なステークホルダーに支えられて事業活動を行っています。社会の一員としてステークホルダーとどのようにコミュニケーションしていくかは最優先の経営課題です。多様な価値観の尊重、法令など社会的ルールの遵守、社会的使命への積極的な取り組み、これらのいずれがおろそかになっても社会とのスムーズなコミュニケーションは困難になります。

あらゆるステークホルダーと理解しあい、スムーズなコミュニケーションを図っていくことで、ルネサスが社会から信頼される企業であり続け、持続可能な社会に貢献できるよう真摯に取り組んでまいります。



■企業ビジョン■

【ユビキタスネットワーク社会の実現へ】

私たちは絶え間ない技術革新により、世界中のお客様にインテリジェントチップソリューションを提供していきます。

【マイクロコンピューターのリーダーとして】

私たちは、幅広いアプリケーションに対応する特徴のあるマイクロコンピューターを提供し続けます。

【信頼される企業として】

私たちは、信頼される経営を行い、成長し続けます。

ルネサスのCSR

- ルネサス企業理念
- CSR憲章
- 企業倫理プログラム
- CSRビジョン
- コーポレートガバナンス
- CSR推進体制
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ対策
- 品質保証への取り組み
- サプライチェーンを通じた環境活動
- イントロダクション
- 法令遵守を超えて
- 個人の尊重に向けて
- 環境への取り組み
- 暮らしやすい社会のために
- ステークホルダー・コメント

ルネサスのCSR

RENESAS CSR REPORT 2007

CSRに対するルネサスの基本的姿勢と考え方をご理解いただけます。

ルネサス企業理念

社会全体の中でルネサスグループが果たす役割を認識し、明文化しました。

CSR憲章

ルネサスグループのCSRのあり方を、それぞれのテーマごとに明確にしています。

企業倫理プログラム

ルネサスグループ各社の社員が、高い倫理観に則り、行動するための指針として設定しました。

CSRビジョン

「CSR憲章」および「企業倫理プログラム」の位置づけを図示しています。

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス(企業統治)の強化・運営を目指すルネサスの姿をご紹介します。

CSR推進体制

社員ひとり一人がCSR活動をより効果的に進めるための委員会、事務局など。その組織について。

リスクマネジメント

ルネサスグループの内外における事業活動を妨げる要因となるリスクの未然防止と、緊急時の適切な対応について。

情報セキュリティ対策

ルネサスグループでは、情報漏洩事故の防止のために情報管理体制の強化に努めています。

品質保証への取り組み

お客様に安心して使っていただける品質を実現するための、ルネサスグループの取り組みの状況をご覧ください。

サプライチェーンを通じた環境活動

ルネサスでは、社会貢献、環境保全、顧客満足の観点から、サプライチェーンを通じた適切な調達を実施しています。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

ルネサスのCSR

ルネサス企業理念 **+**

CSR憲章

企業倫理プログラム

CSRビジョン

コーポレートガバナンス

CSR推進体制

リスクマネジメント

情報セキュリティ対策

品質保証への取り組み

サプライチェーンを通じた環境活動

イントロダクション

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

■ 企業理念 ■

ルネサステクノロジは、
世界中の人々の生活のいたるところで存在することで、
安心・快適・夢を支え続けます。

■ 企業ビジョン ■

【1. ユビキタスネットワーク社会の実現へ】

私たちは、絶え間ない技術革新により、
世界中のお客様にインテリジェントチップソリューションを提供していきます。

【2. マイクロコンピュータのリーダーとして】

私たちは、幅広いアプリケーションに対応する、
特徴のあるマイクロコンピュータを提供し続けます。

【3. 信頼される企業として】

私たちは、信頼される経営を行い、成長し続けます。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

[上へ](#)

ルネサスのCSR

ルネサス企業理念

CSR憲章

企業倫理プログラム

CSRビジョン

コーポレートガバナンス

CSR推進体制

リスクマネジメント

情報セキュリティ対策

品質保証への取り組み

サプライチェーンを通じた環境活動

イントロダクション

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

CSR憲章

ルネサステクノロジ、グループ会社およびその社員は、私たちの「企業倫理プログラム」を着実に実行するとともに、お客様やお取引先をはじめとするパートナーや株主、地域社会などのステークホルダーとの共生から生まれる知恵や機会を事業の源泉とし、優れた半導体製品と誠意あるサービスの提供を通じて、安心・快適・夢の実現に貢献し、社会の循環的かつ持続的な発展へ寄与していきます。

【法令遵守を超えて】

私たちは、各国の法令や国際ルールを遵守するとともに、社会の一員として高い倫理観と公正で秩序ある競争理念の下で行動することに加え、その活動をパートナーとともに展開することに努めます。

【個人の尊重に向けて】

私たちは、個人の能力を尊重するとともに、やりがいのある安全で働きやすい職場の構築と確保に努めることに加え、各自が持てる能力を最大限に発揮できるように支援します。

【環境への優しさを目指して】

私たちは、環境の保全、向上および蘇生を地球市民の責任と受け止め、自らが積極的に環境活動に参加するとともに、環境に配慮した半導体製品の開発・製造・販売を促進します。

【暮らしやすい社会のために】

私たちは、地域の文化や習慣を尊重するとともに、社会に貢献するための活動に積極的に参画し、自ら活動します。

ルネサスのCSR

ルネサス企業理念

CSR憲章

企業倫理プログラム

CSRビジョン

コーポレートガバナンス

CSR推進体制

リスクマネジメント

情報セキュリティ対策

品質保証への取り組み

サプライチェーンを通じた環境活動

イントロダクション

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

■ 企業倫理プログラム ■

ルネサステクノロジ、グループ各社およびその社員は、各国の法令を遵守するとともに、高い倫理観に則り、常に以下の視点に立って行動します。なお、トップおよび幹部社員は、このプログラムに基づき自ら率先実行し、職場規律の適正な維持管理と活力ある職場作りに努め、所属社員の士気高揚を図ります。

【公正な競争および取引】

1 私たちは、公正で秩序ある競争理念を行動の基本とし、公正な企業取引を実践します。

【企業の透明性】

2 私たちは、法令、条例に則り、企業情報等の会社の状況を適時かつ公正に開示します。

【環境への取り組み】

3 私たちは、全ての事業活動および社員行動において、環境関連法令を遵守します。

【人権尊重】

4 私たちは、人種、国籍、宗教、性別等いかなる差別も行わず、またセクシャルハラスメント等の人権侵害行為をせずに個人の権利を尊重します。

【反社会的取引防止】

5 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは一切取引を行いません。

【情報管理】

6 私たちは、他社の所有する経営および技術情報の価値を十分に尊重するとともに、当社の有する経営および技術情報の価値を十分に認識し、その厳正な管理体制の確立と管理の徹底に努めます。

【輸出管理】

7 私たちは、我が国のみならず世界各国の輸出に関する貿易関連法令を遵守します。

【企業人としての自覚】

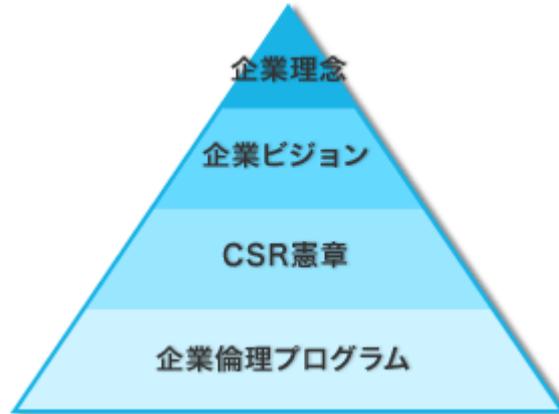
8 私たちは、自らの扱う財産、時間、情報等に対し、公私を厳しく峻別し行動します。

ルネサスのCSR

- ルネサス企業理念
- CSR憲章
- 企業倫理プログラム
- CSRビジョン** ➔
- コーポレートガバナンス
- CSR推進体制
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ対策
- 品質保証への取り組み
- サプライチェーンを通じた環境活動
- イントロダクション
- 法令遵守を超えて
- 個人の尊重に向けて
- 環境への取り組み
- 暮らしやすい社会のために
- ステークホルダー・コメント

CSRビジョン

「CSR憲章」と「企業倫理プログラム」の位置づけ



企業理念の礎として、ルネサスのあるべき姿を示したものが「企業ビジョン」であり、本ビジョンの実現に向けた活動方針・行動方針として「CSR憲章」「企業倫理プログラム」を制定しています。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

ルネサスのCSR

- ルネサス企業理念
- CSR憲章
- 企業倫理プログラム
- CSRビジョン
- コーポレートガバナンス
- CSR推進体制
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ対策
- 品質保証への取り組み
- サプライチェーンを通じた環境活動
- イントロダクション
- 法令遵守を超えて
- 個人の尊重に向けて
- 環境への取り組み
- 暮らしやすい社会のために
- ステークホルダー・コメント

コーポレートガバナンス

近年、企業価値の最大化を実現するために、コーポレートガバナンス（企業統治）強化の重要性がますます高まっています。ルネサスでは、企業の社会的責任を果たすことが企業価値を増大させる最も重要な要件であると考え、CSR憲章に基づいた、公正かつ透明性の高い日々の業務執行、スピードある経営意思の決定などを実現するためのコーポレートガバナンスの強化・運営を目指しています。

【取締役会】

経営目標・経営戦略など当社の重要な業務執行を決定します。取締役12名のうち2名が社外取締役となっています。また取締役とは別に8名の業務執行役員を置いています。

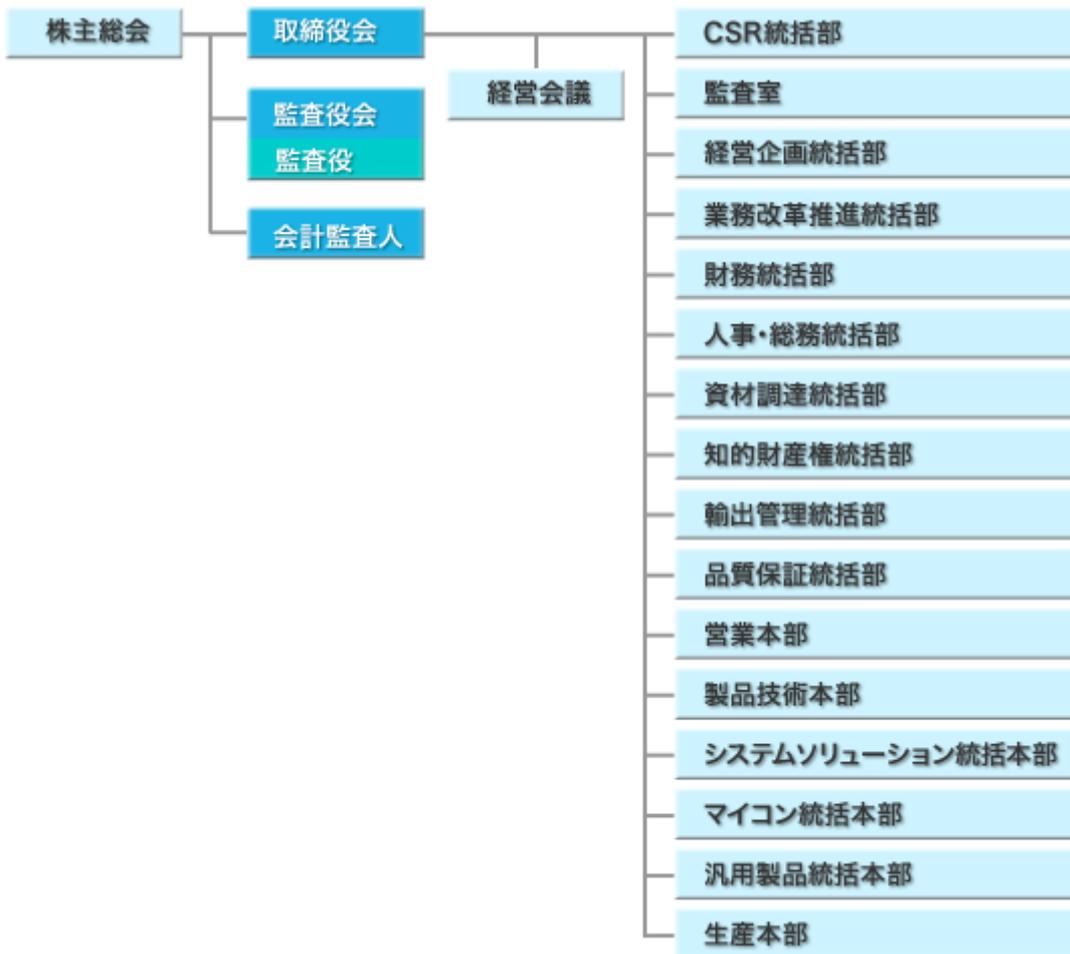
【監査役会】

業務が法令や規則、定款に則り行われているかを監督し、監査に関する重要な事項の報告を受け、協議や決議を行います。

法令では社外監査役を半数以上置くことを要求されていますが、ルネサスでは、過半数（4人中3人）の社外監査役を置いており、経営のモニタリング機能（監査機能）の強化を図っています。

【会計監査人】

計算書類などの会計に関する書類が法令および定款に従って作成されているかを監査します。



ホーム / CSRへの取り組み / ルネサスのCSR / **CSR推進体制**

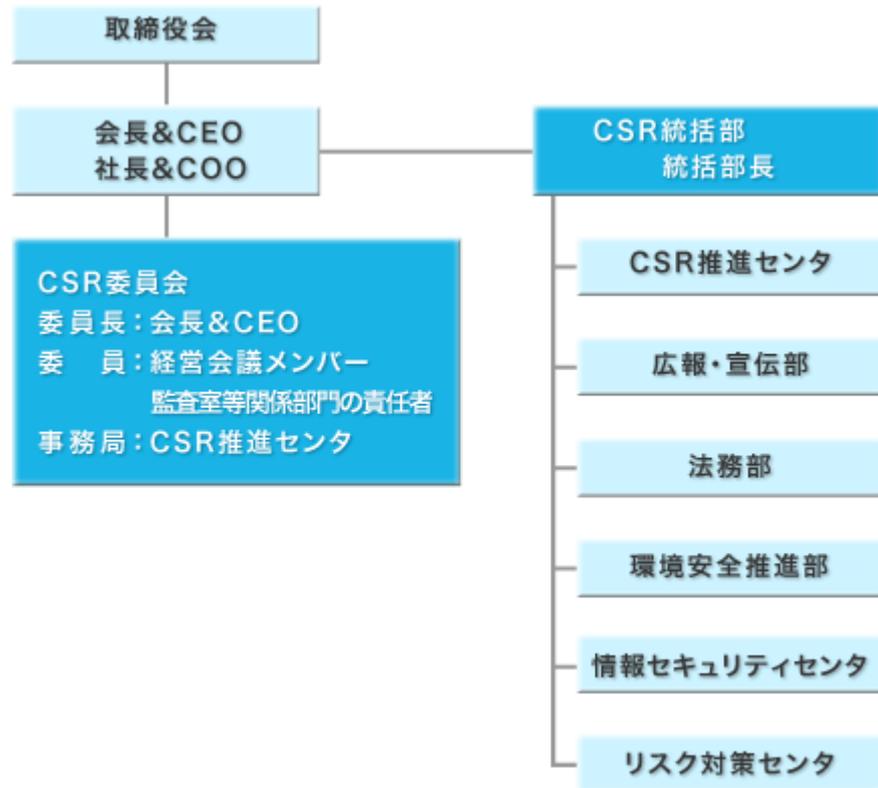
このページへのご意見
このページを印刷

ルネサスのCSR

- ルネサス企業理念
- CSR憲章
- 企業倫理プログラム
- CSRビジョン
- コーポレートガバナンス
- CSR推進体制** →
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ対策
- 品質保証への取り組み
- サプライチェーンを通じた環境活動
- イントロダクション
- 法令遵守を超えて
- 個人の尊重に向けて
- 環境への取り組み
- 暮らしやすい社会のために
- ステークホルダー・コメント

CSR推進体制

CSR活動は、会社にいる一人ひとりが積極的に参加する全員の活動です。従ってCSRを推進する主体は社員一人ひとりですが、その活動をより効果的に進めるための委員会としてCSR委員会を設置し、その事務局としてCSR推進センタがあります。



[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

[上へ](#)

ルネサスのCSR

ルネサス企業理念

CSR憲章

企業倫理プログラム

CSRビジョン

コーポレートガバナンス

CSR推進体制

リスクマネジメント

情報セキュリティ対策

品質保証への取り組み

サプライチェーンを通じた環境活動

イントロダクション

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

リスクマネジメント

企業を取り巻くリスクには、「事故災害」「法務（訴訟）」「財務」「労務」「政治」「経済」「社会」の7つの分野があるといわれています。リスク対策センタは、セルフディフェンスと人命の尊重を基本理念とし、ルネサスグループの内外における事業活動を妨げる要因となるリスクの未然防止と緊急時の適切な対応を図ることをミッションとしています。事業のグローバル展開を図っているルネサスでは、国内・海外で起こりうるあらゆるリスクを想定し、以下の4つのポイントを備えるべき課題として設定しています。

- (1)災害・事故（地震、噴火、暴風雨、火災、爆発、破裂、落雷、伝染病など）
- (2)政治紛争（テロ、戦争、革命、内乱など）
- (3)犯罪行為（誘拐、ハイジャック、爆破、放火、脅迫など）
- (4)IT障害（ウィルス、ハッキングなど）

事業継続経営（BCM*）と事業継続計画（BCP*）

自然災害や火災・爆発事故により、被災企業のみならず取引先企業も事業活動に大きな影響を受けた事例を背景として、国内外のお客様からBCM／BCPの導入要請が高まっており、又、日本政府も内閣府・経済産業省ガイドライン、中小企業庁運用指針が公表され、BCM／BCPの導入は、企業の社会的責任の一つとなっています。

かかる状況下、ルネサスグループとしてCSR憲章を基本理念とし、次の方針に基づきBCM／BCPを推進しています。

■ BCM / BCP 方針 ■

- 1.BCM／BCPを防災・危機管理の主軸と位置づけ、ルネサスグループを取り巻く様々なリスクに対し、予防・回避・克服するために日頃から必要な取り組みを積極的に推進し、継続的な製品・サービスの提供責任の履行並びに経営資源の保全を実現する
- 2.万一、リスクが発生した場合には、お客様・従業員を含め業務に携わる全ての人々の人命を最優先とした対策を実施するとともに、二次災害防止、さらに事業の早期復旧を行う
- 3.BCM／BCPを定期的に点検・見直し、継続改善を行うことにより充実したものとして発展させる
- 4.BCM／BCPの構築および実施にあたっては、地域社会との共存関係の維持向上に留意する
- 5.事業継続・発展のために経営者自らおよび社員一人ひとりが、平時より危機管理・実践的防災意識を高めるとともに、BCM／BCPの構築・推進に責任と使命があることを自覚し、主体的・積極的に参画する

* BCM(Business Continuity Management)／BCP(Business Continuity Plan)

ルネサスグループBCM／BCPの概要

- (1)国内外のお客様から大規模地震発生時の対応について、お問い合わせが増えていることも踏まえ、内閣府の推奨値である「震度6強」の被災を想定し、生産部門、営業部門、人事総務部門、資材部門、IT部門、設計開発部門等の全関係部門が自部門における安全対策、緊急時体制、被害軽減対策、事業継続対策、早期復旧対策を中心としたBCPを策定しています。
- (2)上記のBCPを応用し、地震以外の自然災害、新型インフルエンザなどのリスクに対応したBCPIにも取り組んでいます。
- (3)社内各部門が策定したBCPを経営的に統合・推進し、P・D・C・Aのサイクルにより各BCPを継続的に改善するシステムとしてBCMを構築しています。

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

[上へ](#)

ホーム / CSRへの取り組み / ルネサスのCSR / **情報セキュリティ対策**

このページへのご意見
このページを印刷

ルネサスのCSR

- ルネサス企業理念
- CSR憲章
- 企業倫理プログラム
- CSRビジョン
- コーポレートガバナンス
- CSR推進体制
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ対策** →
- 品質保証への取り組み
- サプライチェーンを通じた環境活動
- イントロダクション
- 法令遵守を超えて
- 個人の尊重に向けて
- 環境への取り組み
- 暮らしやすい社会のために
- ステークホルダー・コメント

情報セキュリティ対策

ルネサスグループでは、情報漏洩事故の防止のために情報管理体制の強化に努めており、2006年度には本社に中央情報セキュリティ委員会を設置して全社規模の体制の構築を図ったほか、CSR統括部にも情報セキュリティセンタを設置し、運用を開始しております。最初に全ての規範となる情報セキュリティポリシーを制定しました。またセキュリティポリシーの制定にあわせて、既存の規則を修正・新規追加するなど、情報セキュリティに関する社内の意思統一を行いました。ルネサスでは、早くから自社の情報セキュリティのリスク分析を行っており、どこに脆弱性があるかを把握し、きちんとした評価のもとに改善措置を図っています。

ヒューマンエラー対策

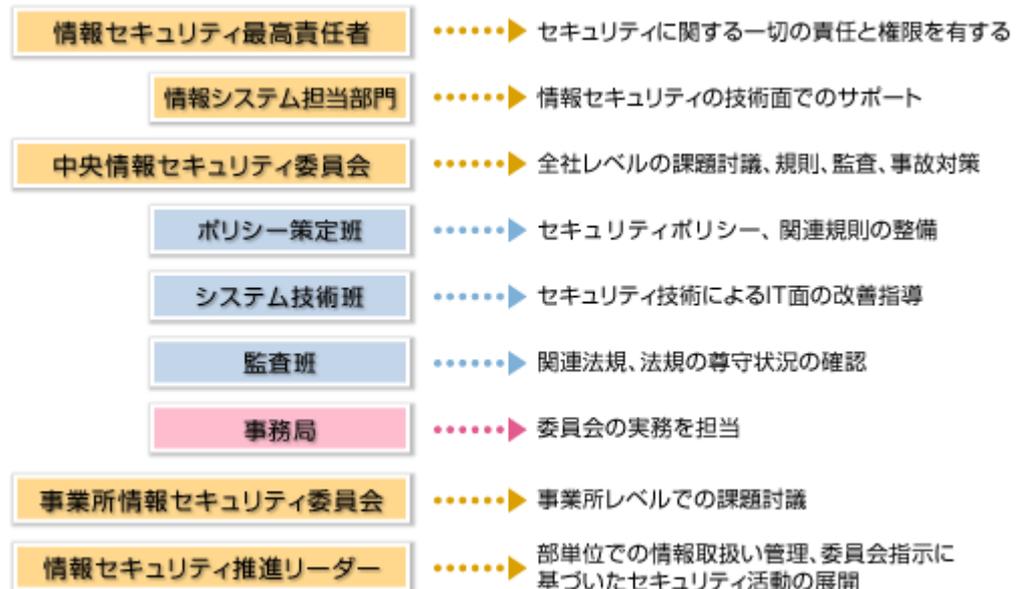
ルネサスでは、情報セキュリティに万全を期すため、全ての社員に機密保持の自覚を促すとともに、ヒューマンエラーに対しては、IT支援ツールを活用するなどの予防措置を行っています。

1. パソコンの紛失・盗難に対しては、第三者による不正なデータ読取への対策として暗号化ツールを導入。
 - ▶ 暗号化ツールにはパソコンを介したデータ授受を記録する機能もあり、万一情報漏洩が起こった際に授受記録をトレースすることにより漏洩元の特定が容易
2. 仕事で個人のPCや記録媒体を使うことを禁止。
 - ▶ PCは会社から貸与。記録媒体はロゴ入りのUSBメモリーを配布
3. 定期的に自己監査を実施
 - ▶ 情報セキュリティの取り組みが実際に機能しているかをチェックリストで定期的に確認

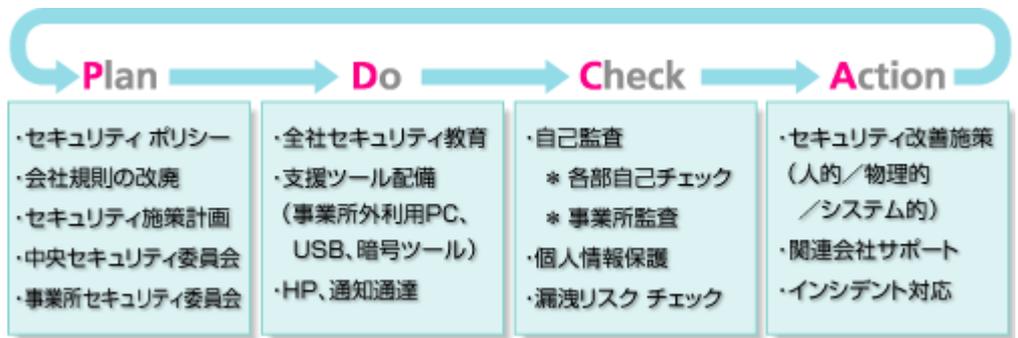
社員教育の実施

情報セキュリティに関する社員教育は、新入社員教育等の職能別教育でセミナーを開催しているほか、独自に作成した教材を元にe-Learningを利用して全社的な教育を実施しています。また、セミナー等では対応できない小規模の販売店や協力会社向けにビデオ教材を作成。小規模拠点でも本社と同レベルの教育が受けられるよう工夫しています。

■ 情報セキュリティの体制



■ 情報セキュリティの運用



■ 個人情報保護方針 ■

ルネサステクノロジは、ユビキタス時代のリーダーを目指す半導体メーカーとして、お客様、取引関係者、役員及び社員（嘱託、顧問、パートタイマー、アルバイト、契約社員、派遣社員等を含みます）の個人情報の価値を十分に尊重し、その厳正な管理体制の確立と徹底に努めます。

※ルネサステクノロジの個人情報保護方針の全文は[こちら](#)から

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

[上へ](#)

[ホーム](#) / [CSRへの取り組み](#) / [ルネサスのCSR](#) /
品質保証への取り組み[このページへのご意見](#)
[このページを印刷](#)**ルネサスのCSR**[ルネサス企業理念](#)[CSR憲章](#)[企業倫理プログラム](#)[CSRビジョン](#)[コーポレートガバナンス](#)[CSR推進体制](#)[リスクマネジメント](#)[情報セキュリティ対策](#)[品質保証への取り組み](#)[サプライチェーンを通じた環境活動](#)**イントロダクション**[法令遵守を超えて](#)[個人の尊重に向けて](#)[環境への取り組み](#)[暮らしやすい社会のために](#)[ステークホルダー・コメント](#)**品質保証への取り組み**

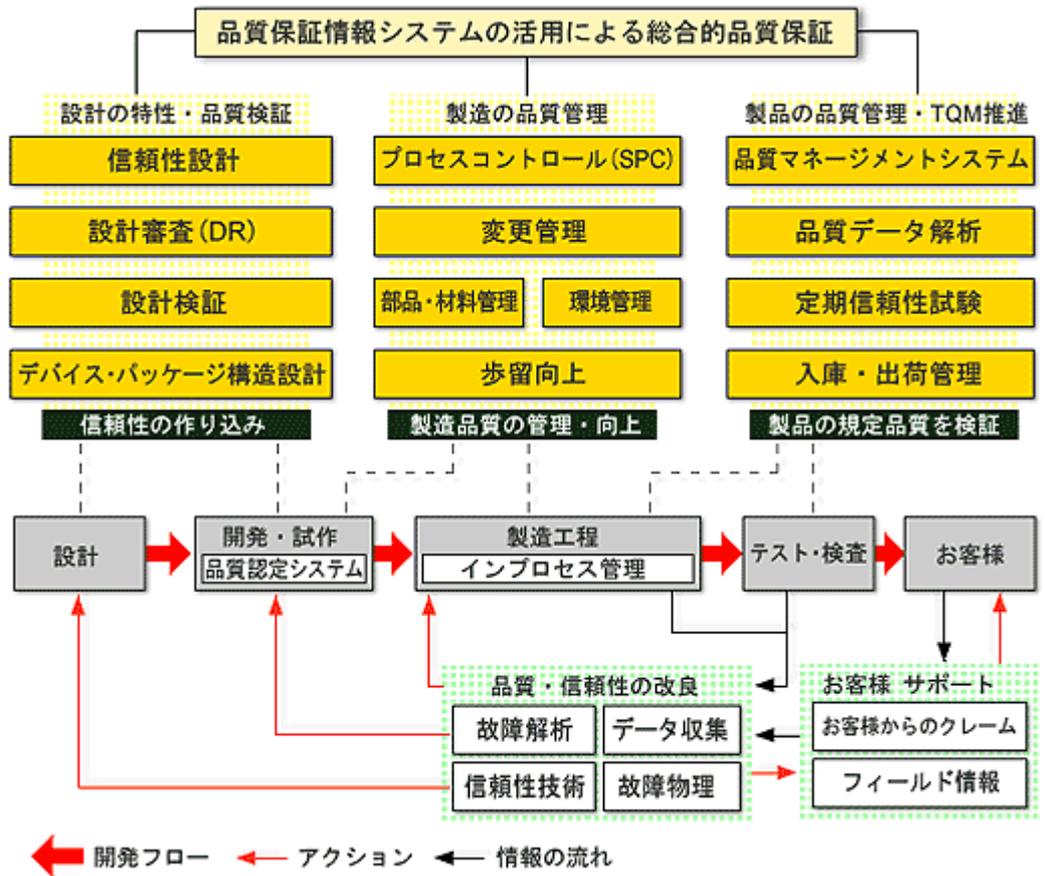
ルネサスは「信頼される企業」を目指すことをビジョンに掲げており、それを達成する重要なポイントのひとつが、お客様に安心して使っていただける品質の製品を提供していくことだと考えています。これを実現させる品質保証の取り組みとして、基本的な品質方針を定め全社員に徹底するとともに、国際規格であるISO9001、およびISO/TS16949を取り入れた、全社的な品質マネジメントシステムを構築し、お客様に満足いただける品質の実現に全員で取り組んでいます。

ルネサス品質方針

半導体製品がもたらす社会への影響の継続的拡大を十分に認識し、この認識に基づく品質改善活動を継続的に推進することを、当社の品質基本方針とする。

1. お客様に十分満足いただける品質の製品を提供することを第一とする。
2. 倫理・法令を遵守し、常に注意を怠ることなく業務を行う。
3. ISO9001、ISO/TS16949規格に基づいた、品質マネジメントシステムを構築し、そのシステムの有効性の継続的改善を図る。
4. 下記重点課題に対し、各階層において品質目標を年度ごとに設定し、その達成を図る。また、常にその達成状況をレビューし、フィードバックする。

- (1) 開発・設計段階では品質の作りこみを徹底する。
- (2) 製造段階ではゆらぎのない品質を目指し、また、異常を早期発見する仕組みをつくる。
- (3) 不良品の流出防止を徹底し、お客様への不良品流出ゼロを目指す。
- (4) 従業員、及び仕事の質的レベルアップを図る。



『信頼性ハンドブック』の発行・配布

お客様からのご要望にも応え、2006年6月にルネサスの品質に関する考え方・品質保証の仕組みをはじめ、製品の開発設計段階からの品質の作りこみのための信頼性技術、故障解析技術までを系統的にまとめた、『信頼性ハンドブック』を発行(全面改訂)し、冊子とPDFデータでお客様に配布しております。



『信頼性ハンドブック』冊子版

WebのPDFダウンロードページへのアクセス数も多く、お客様にも好評。

ダウンロードページは [こちら](#) から

品質保証専門会社の設立

2007年4月には、品質保証の新しい取り組みとして、半導体及び電子部品の信頼性試験等を手掛ける品質保証専門会社である「(株)ルネサスクオリティエンジニアリング」を設立し、品質保証の専門化・アウトソーシング化を図り、より客観的で、より信頼性の高い品質評価を行うよう努めています。

ISO9001・ISO/TS16949認証取得状況

拠点名	ISO9001 登録年月	ISO/TS16949 登録年月
ルネサステクノロジ 本社及び各事業所	1993年9月 ～1994年10月	2004年12月
ルネサス北日本セミコンダクタ 本社及び各事業所		
ルネサス東日本セミコンダクタ 本社及び各事業所		
ルネサスハイクオリティー		
ルネサス那珂セミコンダクタ		
ルネサスデザイン		
ルネサスクオリティエンジニアリング		
(以上のISO9001は、旧日立製作所及び旧三菱電機時代に取得)		

ルネサス九州セミコンダクタ	1994年11月	2004年3月
ルネサス柳井セミコンダクタ	1994年6月	-
ルネサス長野セミコンダクタ	-	2005年8月
ルネサスハイコンポーネンツ	1994年12月	-
ルネサス販売	2006年12月	2006年12月
Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd	2001年6月	2006年5月
Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd	1998年12月	-
Renesas Semiconductor (Malaysia/PENANG) Sdn. Bhd.	1993年12月	-
Renesas Semiconductor (Malaysia/KEDAH) Sdn. Bhd.	1993年12月	-
Renesas Semiconductor Europe (Landshut) GmbH	1993年1月	2007年3月
Renesas Technology America Inc.	-	2004年12月
Renesas Technology Europe GmbH.	-	2004年12月

品質向上への取り組み

微細化と高機能化のスピードが非常に速い半導体製品において、特に高い品質・信頼性・安全性を確保していくために、ルネサスでは「品質は経営の基本である」との観点から、製品の品質向上に積極的に取り組んでいます。

具体的には、全体的なレビューを行う「品質マネジメントレビュー会議」と組織的・経営的な面から品質改善を行う「品質経営委員会」において、全社レベルでの品質に関する評価を実施しています。

また、製品の設計品質を高めるための設計審査、究極的な品質を目指す工程品質管理などを通して、品質改善のサイクルが常に前進するように運営することで、総合品質の向上に努めています。

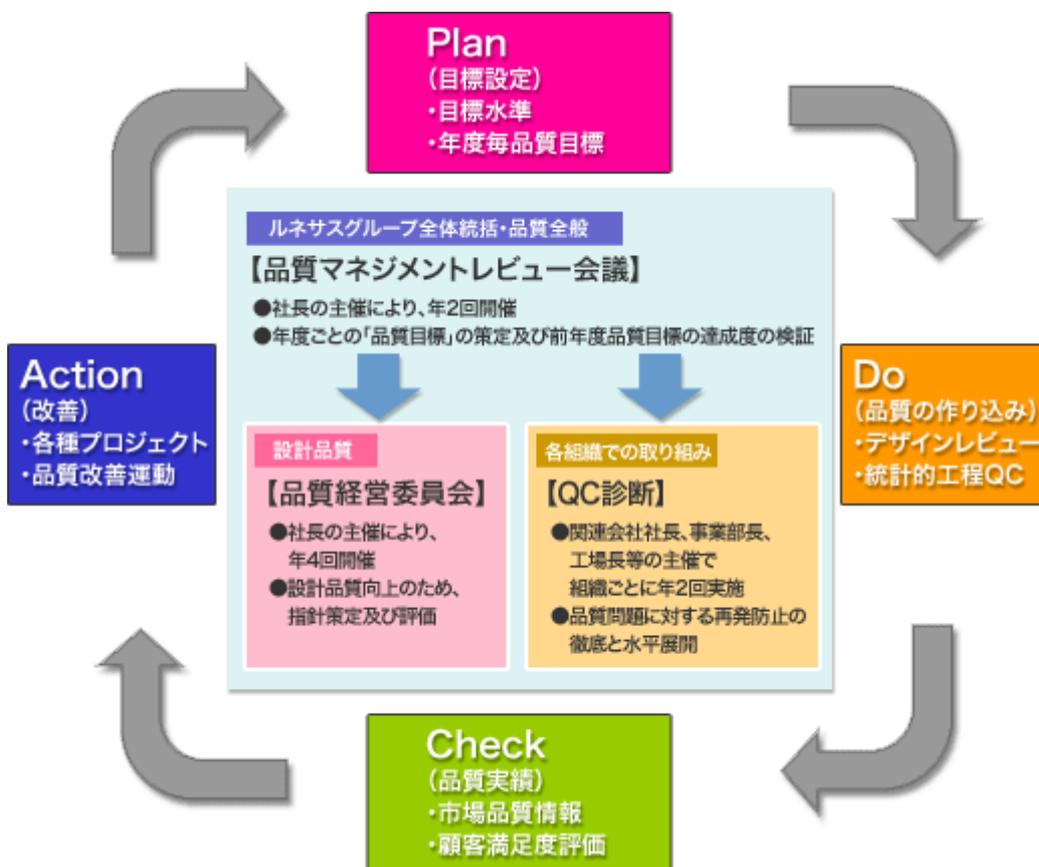
海外拠点における品質向上の取り組み

海外に生産拠点を数多く持つ当社は、海外拠点における品質管理・品質向上も大きな課題と認識し、現地の法令や労働条件、生活文化等に配慮しながら従業員教育をはじめとする様々な施策に取り組んでいます。これまでのような設計は国内、生産は海外ではなく、海外の設計拠点の拡大への対応に力を入れています。

2006年度の具体的な取り組みは以下の通りです。

- (1)製造品質のみでなく設計品質の向上
- (2)ISO9001およびISO/TS16949の生産・物流・営業を含めた一括認証取得
- (3)顧客からのクレームを解析する海外QAセンターの展開

■ 品質マネジメントシステム



製品の安全性

ルネサスでは、完成した半導体製品の品質保証はもちろん、半導体を組み込み、搭載されるお客様の最終製品やシステムが安全に動作することが、真の製品安全性であると考えています。
最終製品やシステムの動作環境・使用環境、想定される様々な付加を想定して、適切な半導体製品を搭載していただくために、お客様と常に緊密なコミュニケーションを図っています。

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

[上へ](#)

ホーム / CSRへの取り組み / ルネサスのCSR / サプライチェーンを通じた環境活動

このページへのご意見
このページを印刷

ルネサスのCSR

- ルネサス企業理念
- CSR憲章
- 企業倫理プログラム
- CSRビジョン
- コーポレートガバナンス
- CSR推進体制
- リスクマネジメント
- 情報セキュリティ対策
- 品質保証への取り組み
- サプライチェーンを通じた環境活動**

イントロダクション

- 法令遵守を超えて
- 個人の尊重に向けて

環境への取り組み

- 暮らしやすい社会のために
- ステークホルダー・コメント

サプライチェーンを通じた環境活動／グリーン調達

ルネサスでは、社会貢献、環境保全、顧客満足の見点からサプライチェーンを通じた適切な調達を実施しています。

具体的には取引開始の際に取り交わす「基本契約書」に盛り込まれた社会貢献に対する要望、環境保全に関する要望等をご理解いただいた上で取引をお願いしています。

さらに、ルネサスの調達方針をお取引先にご理解いただくための説明会を開催し、基本契約書に盛り込まれていない時事的な問題については、この説明会の場で改めて説明しています。

また、本社で定めた調達基準などを各拠点の調達部署に浸透させるため、仕入れ担当のマネージャーミーティングを定期的で開催しています。

グリーン調達の考え方

製品に使用する原材料等の調達にあたっては、環境保全を積極的に推進しているサプライヤーの製品や環境負荷が少なく、有害物質を含まないものを優先的に購入するグリーン調達を実施しています。

ルネサスのお客様のグリーン調達に関する要望を踏まえ、直接取引のあるサプライヤーに限らず、サプライヤーのさらに上流にいるサプライヤーを含め、サプライチェーン全体でグリーン調達の浸透を図っています。

中小規模のサプライヤーへの支援体制

グリーン調達では、大手のサプライヤーが自己管理で要望事項を満たしているケースが多く見られる一方で、中小のサプライヤーについては、自社の自助努力だけでは期待される環境保全への対応に難航しているケースもあり、そうしたサプライヤーへの支援のため「外部刺激の提供」と「自主的取り組み支援」を活動の両輪として、中小サプライヤーへの訪問を定期的に行っています。当社担当者訪問により、常に外部からグリーン調達対応への動機付けを行い、ルネサスの要望に対する受け身の取り組みではなく、サプライヤー自身が意識を高め積極的にグリーン調達に取り組めるようになってもらおうとする試みです。

←前のページへ | 次のページへ→

上へ

法令遵守を超えて →

- 法令遵守
- 安全保障輸出管理への取り組み
- 反社会的取引防止活動の推進
- 内部統制・ルネサス企業倫理ホットライン
- イントロダクション
- ルネサスのCSR
- 個人の尊重に向けて
- 環境への取り組み
- 暮らしやすい社会のために
- ステークホルダー・コメント

法令遵守を超えて

RENESAS CSR REPORT 2007

法令や国際ルールの遵守はもちろん、高い企業倫理の下での経営を目指します。

法令遵守

ルネサスグループは、会社規則において諸法令の遵守を義務付け、社内教育の実施を通じて社員の遵法意識の涵養を図るとともに、内部監査などを通じて、法令違反行為の防止・是正にあたっています。

安全保障輸出管理への取り組み

国の定める安全保障輸出管理に関する法令遵守はもちろん、企業として自主的に実施すべき事項を取りまとめ、法令を超えたレベルの管理を行っています。

反社会的取引防止活動の推進

反社会的取引の防止に関しては、「企業倫理プログラム」で明確に定め、ルネサスグループとして積極的な取り組みを行っています。

内部統制・ルネサス企業倫理ホットライン

施行された法律に基づき、運用規則を制定。同時に“ルネサス企業倫理ホットライン”を設置し、運用を開始しました。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

法令遵守を超えて

法令遵守

安全保障輸出管理への取り組み

反社会的取引防止活動の推進

内部統制・ルネサス企業倫理ホットライン

イントロダクション

ルネサスのCSR

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

法令遵守

ルネサスグループでは、法令の遵守を「CSR活動を進める上での前提として最低限確保すべきレベル」と位置づけ、「CSR憲章」において各国の法令や国際ルールを遵守することを宣言しています。

ルネサスグループは、各社の会社規則において諸法令の遵守を義務付け、社内教育の実施を通じて社員の遵法意識の涵養を図るとともに、内部監査などを通じて、法令違反行為の防止・是正にあたっています。

コンプライアンス総点検

2006年度には、各種法令や会社規則の違反リスクの洗い出しを目的として、関係会社を含めルネサスグループの各部門において「コンプライアンス総点検」を実施し、この結果を踏まえ、業務のあり方その他の見直し等を行いました。この「コンプライアンス総点検」は、今後も継続して実施していく予定です。

独占禁止法の遵守

ルネサスでは、独占禁止法の遵守を徹底するために社員教育の強化を進めています。これまでも、営業職や管理職に対する教育の中で独占禁止法についての教育を実施してきましたが、今後はe-Learningシステムの活用などによって全社員に対して独占禁止法遵守の徹底を図っていくこととしています。

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

ホーム / CSRへの取り組み / 法令遵守を超えて /
安全保障輸出管理への取り組み

[このページへのご意見](#)
[このページを印刷](#)

法令遵守を超えて

法令遵守

安全保障輸出管理への取り組み

反社会的取引防止活動の推進

内部統制・ルネサス企業倫理ホットライン

イントロダクション

ルネサスのCSR

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

安全保障輸出管理への取り組み

ルネサスグループの半導体製品とその技術は、あらゆる産業分野で活用されています。情報通信や安全管理等に半導体テクノロジーが欠かせない現在、国際的な平和・安全の維持を妨げる目的に転用されることのないよう、日頃から適切に取り扱う必要があります。

ルネサスグループでは、国の定める安全保障輸出管理に関する法令遵守はもちろんのこと、企業として自主的に実施すべき事項をコンプライアンスプログラムに取りまとめ、法令を超えたレベルの管理を行っています。

また、社員の誰もが最新の世界情勢に合わせた適切な対応ができるよう、安全保障輸出管理の重要性の認識教育を、グループ全体で実施しています。さらに定期的に監査を実施し、必要により改善を図ることで、常に適正な状態が維持されるように管理しています。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

ホーム / CSRへの取り組み / 法令遵守を超えて /
反社会的取引防止活動の推進

[このページへのご意見](#)
[このページを印刷](#)

法令遵守を超えて

法令遵守

安全保障輸出管理への取り組み

反社会的取引防止活動の推進

内部統制・ルネサス企業倫理ホットライン

イントロダクション

ルネサスのCSR

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

反社会的取引防止活動の推進

「企業倫理プログラム」において、「私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは一切取引を行いません」と定め、反社会的取引(いわゆる総会屋活動およびこれに類似する不正な収益を企業から獲得する活動を行う者との直接または間接の取引)の防止にルネサスグループとして積極的に取り組んでいます。具体的には、各事業所・各関係会社に自己検証委員会を設置し、自己規律をもって取引可否を判断し、反社会的取引の防止に努めています。また、グループ全体を統括する中央自己検証委員会を設置し、方針の決定、啓蒙・指導活動、各事業所・各関係会社の運用状況の確認等行っています。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

ホーム / CSRへの取り組み / 法令遵守を超えて /
内部統制・ルネサス企業倫理ホットライン

[このページへのご意見](#)
[このページを印刷](#)

法令遵守を超えて

法令遵守

安全保障輸出管理への取り組み

反社会的取引防止活動の推進

内部統制・ルネサス企業倫理ホットライン

イントロダクション

ルネサスのCSR

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

内部統制 ルネサス企業倫理ホットライン

2006年に施行された会社法に対応するため、内部統制システムの整備状況を確認の上、取締役会にてその基本方針に関する決議を行いました。また、財務情報の適正性を確保するために必要な体制等を求める金融商品取引法(いわゆる日本版SOX法)についても、その対応に向けた取組みを開始致しました。

ルネサス企業倫理ホットライン

2006年4月に施行された「公益通報者保護法」に基づき、ルネサスでは、本法律の趣旨ならびに「CSR憲章」に基づく企業倫理に関する考え方に鑑み、この法律の施行に先立って、2006年1月10日付で「ルネサスグループ企業倫理ホットライン運用規則」を制定。同時に通報者の窓口となる“ルネサス企業倫理ホットライン”を設置し、運用を開始しました。

組織的または個人による倫理(公序良俗)、法令、規則に違反する行為または違反するおそれのある行為により、会社は、結果として人的・物的に多大な損失を被ることとなります。また社会に対しても大きな影響を与え、企業や業界への不信感を育んでしまう恐れもあります。このような行為の抑止と、万一の場合の迅速かつ適正な対応を図るべく、グループ全社で“ルネサス企業倫理ホットライン”の活用に取り組んでいます。

「ルネサス企業倫理ホットライン」の2006年度相談実績は十数件ありましたが、これらの事案の中に違法行為に繋がる事実はありませんでした。

※公益通報者保護法:事業者の違反行為について通報を行った労働者を解雇などの不利益な取扱いから保護することを定めた法律。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

個人の尊重に向けて →

人が育つ会社となるために

人材育成

多彩な人材の活用

人権啓発活動について

労働安全衛生と健康管理

福利厚生と次世代育成支援

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

個人の尊重に向けて

RENESAS CSR REPORT 2007

社員の安全、健康を考えるとともに、働きやすい職場づくりを考えます。

人が育つ会社となるために

ルネサスの人材に関するこれからの取り組みの考え方や人事処遇制度のコンセプトなどをご紹介します。

人材育成

時代の変化に即応できる人材を育てるための、個々の人材の強化と組織の活性化に向けた取り組みについて。

多彩な人材の活用

障害者の採用活動を継続するとともに、障害者にとっても働きやすく、魅力的な職場を作りを進めています。

人権啓発活動について

ルネサスは、働く全ての社員の人格・人権を尊重し、差別のない誰もが働きやすい職場作りを目指しています。

労働安全衛生と健康管理

ルネサスでは、社員の安全と健康を守り、働きがいのある快適な職場環境の形成を企業活動の基本として、日々の活動に取り組んでいます。

福利厚生と次世代育成支援

社員一人ひとりの安心と勤労意欲向上に向けた福利厚生制度、および仕事と家庭の両立をサポートする次世代育成の支援制度について。

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)



ホーム / CSRへの取り組み / 個人の尊重に向けて /
人が育つ会社となるために

このページへのご意見
このページを印刷

個人の尊重に向けて

人が育つ会社となるために

人材育成

多彩な人材の活用

人権啓発活動について

労働安全衛生と健康管理

福利厚生と次世代育成支援

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

人が育つ会社となるために

ルネサスでは「人材と組織の活性化」を経営基盤の重要な要素と位置づけ、個人→会社→社会の発展が同心円で拡大していくことを目指し、人事に関する様々な取り組みを推進しています。

また、会社にとって重要な財産と言える社員に対し、公正な処遇に心がけ、その個性・多様性を尊重し、社員一人ひとりが高いモチベーションを持って仕事に取り組めるよう様々な支援を行っています。2005年には、ルネサスグループ全社を対象とした人事処遇制度のコンセプトを定めました。

人材に関するこれからの取り組みの考え方

1. 仕事を通じて、一人ひとりが、技術・知識・スキルを向上させるとともに、職業人・社会人としても成長していくことを大切にする
2. 組織の結集力を高め、一人ひとりの潜在能力をフルに発揮させる。その具体的な成果を、直接、間接に会社の発展につなげていく
3. 事業活動を活発にすることで、ルネサスの追及する『安心・快適・夢』の価値を、より多く広く社会に提供していく

人事処遇制度のコンセプト

1. ルネサスの人事処遇制度は「役割・成果主義」をコンセプトとして構築
2. 役割レベル、またその役割における行動・成果に応じ賃金・賞与を支給
3. 成果主義を基本とするが、成果のみを処遇に反映するのではなく、行動も重視する
4. また、処遇評価、能力開発、配置が三位一体となり、相互に連動・循環する制度を目指す

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

[上へ](#)



製品 アプリケーション サポート

キーワード / 型名

その他の検索

ホーム / CSRへの取り組み / 個人の尊重に向けて / 人材育成

このページへのご意見
このページを印刷

個人の尊重に向けて

人が育つ会社となるために

人材育成

多彩な人材の活用

人権啓発活動について

労働安全衛生と健康管理

理

福利厚生と次世代育成

支援

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

人材育成

ルネサスが継続的に成長・発展し、広く社会に貢献していくためには、社員一人ひとりの成長と活躍が不可欠です。ルネサスでは、グループ全社の人材育成を促進する組織として「人材育成委員会」を年2回開催し、全社の人材育成方針の作成、具体的な施策の実施、予算配分などを行っています。また各事業所にもそれぞれ事業所単位の人材育成委員会を設け、本社で打ち出した人材育成方針を受けて、現場レベルでの各施策に取り組んでいます。

時代の変化に即応できる人材を育てるため、人材育成方針は年度ごとに改善・修正が行われ、「社員意識調査」で集められた社員一人ひとりの声も反映されます。

■人材と組織の活性化に向けた取り組み

	区分	項目(各社・各層にて項目の相違があるが、同様の考え方で展開)
1	<個の強化>	個人別のスキルの向上・能力開発計画の拡充
2		国際化力の強化(国際感覚の付与機会増加、海外業務キャリアの明確化、海外勤務者へのケアの充実等)
3		事業所単位での教育施策の拡大(階層別研修の充実)
4		関係会社と海外現地法人の教育体系の整備・拡充
5		開発・設計技術者を中心とした採用数の増加とリクルート活動の拡大
6		多様な人材及び外部リソースの活用強化
7	<結集力の高揚>	幹部と中堅・若手層のコミュニケーションの増加
8		部門別研修の継続・質の向上
9		目標管理制度(MBO)の更なる有効活用(コミュニケーションツール)
10		リーダーシップ養成研修の課長級展開の加速
11		若手層のコミュニケーション能力向上研修の全社的展開
12	<処遇その他>	昇給・賞与制度運営のリファイン(メッセージ性の向上ほか)
13		表彰制度の拡充(より積極的に、きめ細かく、タイムリーに表彰可能な仕組みを構築)
14		ライフワークバランスの追求
15		社員意識調査の実施

■ルネサス全社教育体系

	新人	担当者～係長	課長	部長以上
階層別教育	導入教育	新任係長級研修	選抜課長級研修	選抜部長級研修
	1年目振り返り研修	中堅係長級研修		
	研修成果報告		新任課長級研修	リーダーシップ研修
職能研修	技術教育	基礎コース	専門コース(約70講座)	
		特許研修	スキルチェックライアル	
	営業教育	営業事例研修		
	営業実務/スキル/技術知識(約80講座)			
技能教育	基幹職新人教育	生産リーダー育成研修		
		ルネサスSETカレッジ		
		社内技能検定		
国際化教育		海外留学/OJT		
	英語によるプレゼンテーション/ネゴシエーション研修			
	選抜中国語教育			
	社内英語検定			

ビジネス スキル教育		国内留学(大学/ビジネススクール派遣)
		ロジカルプレゼンテーション研修
共通教育		RISM研修
		幹部推薦図書
		CSR教育
自己啓発 支援		通信教育
		語学研修(英語・中国語)

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

[上へ](#)

個人の尊重に向けて

人が育つ会社となるために

人材育成

多彩な人材の活用

人権啓発活動について

労働安全衛生と健康管理

福利厚生と次世代育成支援

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

多彩な人材の活用

ルネサスにおける障害者雇用率は、2007年10月末時点で1.74%であり、残念ながら法定雇用率を下回っています。誰もがそれぞれの能力を活かせる企業として社会に貢献できるよう、障害者の採用活動を継続していくことはもちろんですが、障害者にとっても働きやすく、魅力的な職場を作っていく取り組みを促進していきます。

バリアフリー環境の整備

北伊丹事業所では、従業員の憩いの場となっている社屋屋上を、身体的なハンディを持つ社員にも気軽に利用できるよう屋上への通路にリフトやスロープを設置しています。また、今後建築物や施設の新規建設、リニューアルを行う際には、様々な角度からバリアフリー環境の整備を実施する方針です。



北伊丹事業所、社屋屋上へのリフト。

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

ホーム / CSRへの取り組み / 個人の尊重に向けて /
人権啓発活動について

[このページへのご意見](#)
[このページを印刷](#)

個人の尊重に向けて

人が育つ会社となるために

人材育成

多彩な人材の活用

人権啓発活動について

労働安全衛生と健康管理

福利厚生と次世代育成支援

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

人権啓発活動について

人権問題の解決は国民的課題であり、この問題に関する企業の社会的責任は重大なものといえます。ルネサスは、働く全ての社員の人格・人権を尊重し、差別のない誰もが働きやすい職場作りを目指しています。そのため「人権啓発推進委員会」を設置し、社員一人ひとりがその本質を理解するため、研修などの啓発活動を通じて人権意識の浸透を図っています。

またセクシャルハラスメントについては、「セクシャルハラスメント防止に関する全社指針」を定め、セクシャルハラスメントならびに疑われる行為の防止に努めるとともに、“セクシャルハラスメント相談・苦情窓口”を設け、相談しやすい環境づくりにも取り組んでいます。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

個人の尊重に向けて

人が育つ会社となるために

人材育成

多彩な人材の活用

人権啓発活動について

労働安全衛生と健康管理

福利厚生と次世代育成支援

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

労働安全衛生と健康管理

社員の安全と健康を守ることは、最優先事項であると考えます。ルネサスでは社員の安全と健康を守り、働きがいのある快適な職場環境の形成を企業活動の基本として、日々の活動に取り組んでいます。

実際の活動は、「全社安全衛生会議」において審議・決定された、防災・安全衛生中期計画並びに年度方針に基づき、事業所ごとに安全活動を推進しております。各事業所では、事業所長をトップとした「労働安全衛生委員会」のもとで、各職場の労働安全・衛生環境をチェックし、そこで改善すべき報告があった場合は、事業所ごとの対応とともに「全社安全衛生会議」に報告され、検証とさらなる安全の徹底が実施されます。

現在、本質安全の実現に向けて、全社的に労働安全衛生マネジメントシステム(OHMS)の認証取得を推進しております。現在、対象となる7事業所中4事業所が認証取得しており07年度中に全事業所認証取得する予定です。

メンタルヘルスケア

ストレス社会といわれる現代では、体の健康と同時に心が健康であり続けることが極めて大事なことで認識されています。ルネサスにおいても、メンタルヘルス対策を関係会社も含めた全事業所において実施しています。

「健康管理センター」にて産業医や契約カウンセラーの診断・カウンセリングが、誰でも気軽に受けられるように相談環境を整えたほか、各研修プログラムにメンタルヘルスの研修時間を十分に盛り込むなど、社員が「健康で、かつ明るく、楽しく働ける会社」を目指しています。

また、労働環境の違いからメンタルのバランスをくずしやすい海外外向の社員に対しても、帰国時に健康診断を実施し、メンタルヘルスのチェックも行っています。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

[上へ](#)

ホーム / CSRへの取り組み / 個人の尊重に向けて / **福利厚生と次世代育成支援**

このページへのご意見
このページを印刷

個人の尊重に向けて

人が育つ会社となるために

人材育成

多彩な人材の活用

人権啓発活動について

労働安全衛生と健康管理

福利厚生と次世代育成支援

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

福利厚生と次世代育成支援

福利厚生制度は、「多様な選択肢と公平性の確保」「適正な受益者負担と自助努力の支援」という基本的な考え方のもと、時代の流れとともに変化する社員のニーズやライフスタイルを的確に捉え、社員一人ひとりの安心と勤労意欲向上に向けた福利厚生制度を目指しています。

仕事と家庭の両立をサポートする次世代育成の支援制度は、妊娠・出産・育児・教育の各段階で活用できる複数の制度を整備し、また支援形態も時短勤務、休暇、休職、退職後の再雇用など社員のライフワークに合わせて選べるよう配慮しています。

中でも「サポート休暇」は、配偶者の不妊治療や子供の入学式等の行事についても休暇の対象としたルネサス独自の制度です。また、サポート休暇とともに男性の仕事と家庭の両立を支援する制度として「配偶者出産休暇制度」も導入しました。

今後は、各種制度の整備のみにとどまらず積極的な活用を呼びかけ、利用実績の向上にも取り組んでまいります。

■ 仕事と家庭の両立を支援する福利厚生制度とその利用実績

制度名	内容	利用実績
出産休暇	原則8週間以内	2006年度 取得者数42名
育児休職	原則子が満1歳に達する日以後の3月31日まで	2006年度 休職開始者数32名
育児短時間勤務	最短で6時間就業まで時短可能	2006年度 時短勤務開始者数36名

サポート休暇制度

サポート休暇制度は、ケガや病気の治療、配偶者の不妊治療、人間ドック等の健康診断、ボランティア活動、入学式や授業参観等子供の養育に関連する行事への参加など様々な休暇ニーズに対して、フレキシブルに活用できる休暇制度です。社員自らの健康管理や社会貢献、仕事と家庭の両立などを幅広く支援するルネサス独自の福利厚生制度として2006年8月に創設されました。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

[上へ](#)

環境への取り組み

- ISO14001認証
- グリーン調達
- 各事業所の取り組み
- 環境ビジョン
- 環境レポート
- CSRへの取り組み

環境への取り組み environmental activities

ルネサステクノロジは、全ての事業活動および社員行動を通じ環境の保全と向上に努め、持続的発展が可能な社会の構築に貢献しています。

当社が取り組む環境保全活動はこちらからご覧頂けます。

▶ 環境レポート

当社の2007年度環境活動実績と2008年度目標をまとめた「環境レポート2008」を公開しています。



▶ ISO14001 認証

ルネサスグループの各工場(事業所)におけるISO14001認証取得情報を掲載しています。

▶ グリーン調達

お取引先様に対して、グリーン調達活動を推進するためのページです。

▶ 各事業所の取り組み

当社の事業所におきまして、独自に公開している情報を掲載しています。

▶ 環境ビジョン

当社の環境基本理念、環境行動指針を掲載しています。

暮らしやすい社会のために[半導体メーカーとしての貢献](#)[ボランティア活動](#)[地域社会との交流](#)[中国蘇州における環境保全活動](#)[その他の活動](#)[イントロダクション](#)[ルネサスのCSR](#)[法令遵守を超えて](#)[個人の尊重に向けて](#)[環境への取り組み](#)[ステークホルダー・コメント](#)**暮らしやすい社会のために**

RENESAS CSR REPORT 2007

社会の一員として、地域社会に貢献するルネサスの姿がここに 있습니다。

半導体メーカーとしての貢献

ルネサスの製品やテクノロジーを、教育の現場やイベントなどでご活用いただき、多くの方々に喜ばれています。

ボランティア活動

地域の清掃活動をはじめ、介護施設、福祉施設への慰問、環境を守るための植樹活動など、多彩なボランティア活動を展開しています。

地域社会との交流

独自の工夫による地域イベントを企画・開催。また、スポーツを通じた地域の方々とのふれあいにも積極的です。

中国蘇州における環境保全活動

ルネサス半導体蘇州では、従業員だけでなくご家族の方々にも参加していただき、地球環境保全に積極的に取り組んでいます。

その他の活動

ルネサスグループによるその他の地域貢献活動についてご紹介します。

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

暮らしやすい社会のために

半導体メーカーとしての貢献

ボランティア活動

地域社会との交流

中国蘇州における環境
保全活動

その他の活動

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

ステークホルダー・コメント

半導体メーカーとしての貢献

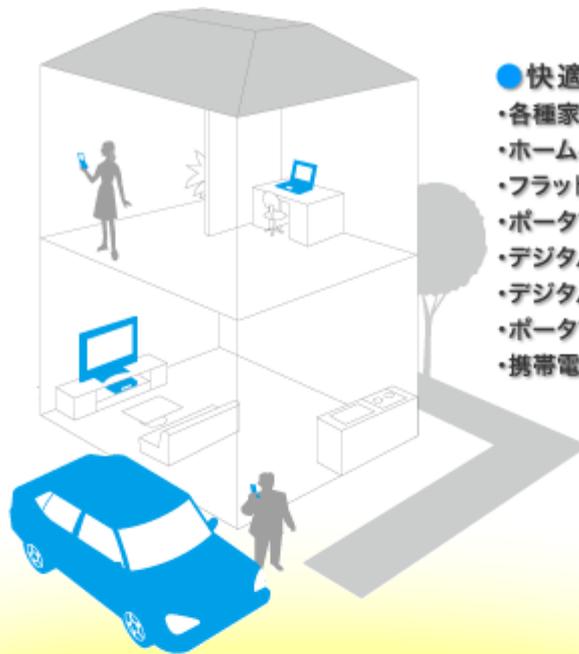
ルネサスは、半導体とその周辺製品および関連サービスの提供を通じて、産業の発展と豊かな社会生活を支えています。2007年2月には、主力商品のフラッシュマイコンが出荷累計10億個を達成するなど、世界の半導体トップメーカーとして、民生・産業・自動車など幅広い分野で活用されています。

CSRでは、第一に企業が社会の一員として、法令及びルールの遵守、社会通念への配慮が求められます。しかしルネサスでは、そうした一般的などの企業でも行えるCSRに限らず、ルネサスならではの事業に基づいた社会貢献が求められていると考えます。そこで、半導体メーカーとしての役割を通じて社会に貢献することを日々模索しています。

人々の生活のいたるところで・・・

ルネサスは、企業理念の「ルネサステクノロジは、世界中の人々の生活のいたるところで存在することで、安心・快適・夢を支え続けます」とあるように、皆さまが過ごす日々の生活の様々なシーンでルネサスの製品が活躍しています。

- 自動車の安全に
 - ・ハイブリッドカー
 - ・カーナビゲーション
 - ・エンジン制御
 - ・ABS制御など

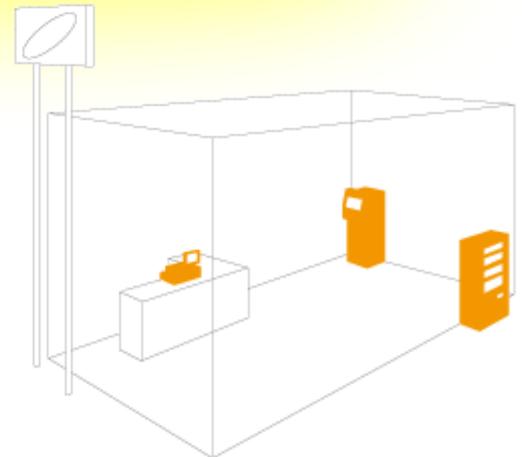


- 快適な家庭生活で
 - ・各種家電製品のマイコン制御
 - ・ホームネットワークシステム
 - ・フラットパネルディスプレイ
 - ・ポータブルDVDプレーヤー
 - ・デジタルムービー
 - ・デジタルカメラ
 - ・ポータブルオーディオ
 - ・携帯電話

ユビキタス社会の実現へ



- ビジネスの効率化に
 - ・ノートPC
 - ・ストレージ
 - ・PDA
 - ・CIS
 - ・複合プリンタ



- 暮らしやすい街づくりに
 - ・自動販売機・券売機
 - ・ATM・CD
 - ・POS端末

マイコンカーラリーの支援

マイコンカーラリーとは、マイコンを搭載し、参加者が独自にプログラミングした完全自走式のマイコンカーでタイムを競う全国規模の大会です。主催者は全国工業高等学校長協会ほか、後援が文部科学省・全国高等学校PTA連合会ほかとなっています。そしてルネサスは協賛会社として大会で使用するマイコンを提供するとともに、技術的なアドバイスをを行うなど、積極的に大会に協力しています。この活動により、ルネサスは「ものづくり」を通じた「こころづくり、ひとづくり」を応援しています。

大学における講座の開設及び支援

群馬大学では、ルネサスの名称を冠した「ルネサステクノロジ先端アナログ回路工学講座」を開設しています。また茨城大学においても「半導体の先端製造プロセス講座」を開設するなど、次代を担うエンジニアの育成に貢献しています。

また、講座の開設とあわせて講師の派遣、実験機材の寄付等も実施しています。

[←前のページへ](#) | [次のページへ](#)

[上へ](#)

ホーム / CSRへの取り組み / 暮らしやすい社会のために /
ボランティア活動

[このページへのご意見](#)
[このページを印刷](#)

暮らしやすい社会のために

半導体メーカーとしての
貢献

ボランティア活動

地域社会との交流

中国蘇州における環境
保全活動

その他の活動

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

ステークホルダー・コ
メント

ボランティア活動

ボランティア活動は、企業として地域社会に貢献する活動と、個人のボランティアへの参加を支援する活動の二つの側面から取り組んでいます。

地域の公園、河川敷、事業所周辺の清掃活動は、地域の一員である企業市民として毎年着実に取り組んでいます。また、全国に事業所やグループ会社を持つルネサスでは、介護・福祉施設の慰問、車椅子の修理や清掃などのボランティア、公園の桜の手入れといった地域に密着した多彩な活動を展開しています。高知事業所では、水資源保全を目的とした植樹に賛同し、物部川上流域で進められている植樹活動に、県および近隣の町職員の皆様とともに参加しました。



アルミ缶回収により、車椅子を寄付。
(羽黒電子)



「大津町環境美化の日」に参加。
(ルネサス九州セミコンダクタ)



米沢地区誠和会「ウォーキング&ゴミ拾い」。
(ルネサス北日本セミコンダクタ 米沢工場)



熊本県環境保全協議会主催の除草刈り作業。
(ルネサス九州セミコンダクタ)

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

[上へ](#)

暮らしやすい社会のために

半導体メーカーとしての貢献

ボランティア活動

地域社会との交流

中国蘇州における環境保全活動

その他の活動

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

ステークホルダー・コメント

地域社会との交流

ルネサスでは、従来から事業所ごとにそれぞれの地域社会との様々な交流を実施してきました。近年では地域のイベントに参加するなどの協力のみでなく、「全国縦断ルネサス祭り」と銘打って「スプリングフェスタ」「夏祭り」「ソフトボールフェスタ」等、ルネサス主催の独自イベントを企画・開催し、地域の皆様からもご好評をいただいています。

ルネサスの特長として、スポーツを通じての地域貢献にも力を入れています。「ルネサス高崎女子ソフトボールチーム」による地元の学生や市民の皆様を対象にしたソフトボール教室、甲府事業所「甲府クイーンビーズ」によるバスケットボールイベントへの支援、その他各種のスポーツイベントを実施しています。ほかにもルネサス所有の体育館やグラウンドを一般開放するなど地域のスポーツ振興をサポートしています。



俵武多(ねぶた)、出陣！
(ルネサス北日本セミコンダクタ 津軽工場)



函館港祭りのイカ踊りに参加。
(ルネサス北日本セミコンダクタ 函館工場)



八雲山車行列に参加。
(北海電子)



米沢市産業祭りで、大鍋芋煮振る舞い。
(ルネサス北日本セミコンダクタ 米沢工場)

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

[上へ](#)

ホーム / CSRへの取り組み / 暮らしやすい社会のために /
中国蘇州における環境保全活動

[このページへのご意見](#)
[このページを印刷](#)

暮らしやすい社会のために

半導体メーカーとしての
貢献

ボランティア活動

地域社会との交流

**中国蘇州における環境
保全活動**

その他の活動

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

ステークホルダー・コ
メント

中国蘇州における環境保全活動

ルネサス半導体蘇州では、従業員だけでなくご家族の方々にも参加していただき、地球環境保全に積極的に取り組んでいます。

2006年度は、廃棄物の分別回収や従業員の不要な本や衣類、オモチャ等を公益事業機関に寄贈するリサイクル活動を行いました。また、撮影コンクールなどを通じて環境の大切さを共有し合う環境啓蒙活動の実施なども検討しています。今後も、様々な活動を計画的に推進し、従業員および家族の環境保護意識を高めていきたいと思っております。一人ひとりの地球環境に対する意識を高め、一つひとつの活動を積み重ねることのできる大きな動きへと繋げていきます。

蘇州大学における環境啓蒙活動

ルネサス半導体蘇州では、従業員だけでなくご家族の方々にも参加していただき、地球環境保全に積極的に取り組んでいます。

スポーツ大会等の社内イベントで蘇州大学の体育館をお借りした際には、昼食の休憩時間等を利用して従業員、家族、大学生の方々に自作の環境パンフレットを配布。地球環境問題を解説し、当社の取り組みについても紹介しました。こうした社内行事を利用して、ルネサスの環境保護に対する姿勢や資源リサイクルの考え方などを地域の方々にご説明し、ルネサスと地域の方々がともに地球環境問題を考える機会を設けています。

植林活動

蘇州ではさらに蘇州農林大世界において植林活動も実施しています。蘇州農林大世界は日本の琵琶湖の三倍はあるという大きな湖「太湖」の湖畔にあり、2006年度は植木職人の指導のもとで百本の楠木(中国語では樟木といいます)を植樹しました。この活動で、自然環境を大切にする意識を高めるとともに、地球温暖化に対して社員一人ひとりが少しでも参加し、貢献することが大切であるという気持ちを育んでいます。また、植林活動など社外へ活動の場を広げることにより、ルネサス半導体蘇州が環境との調和を重視した事業活動を行っていることの理解へと繋がることを期待しています。



蘇州における植林活動の様子。

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

[上へ](#)

ホーム / CSRへの取り組み / 暮らしやすい社会のために /
その他の活動

[このページへのご意見](#)
[このページを印刷](#)

暮らしやすい社会のために

- 半導体メーカーとしての貢献
- ボランティア活動
- 地域社会との交流
- 中国蘇州における環境保全活動

その他の活動

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

ステークホルダー・コメント

その他の活動

ルネサスグループでは、世界各国や日本全国で起きている地震等の災害に対する義援金の協力を積極的に行っています。

また、武蔵事業所において敷地の一部を公園として市に提供し、隣接道路の渋滞緩和策として路線バスを会社敷地内のロータリーに引き込むなど、地域の人々に役立つ様々な活動を実施しています。

■ 2006年度ルネサスグループ地域貢献活動

分類	内容	件数
イベント関連	ルネサス主催、または日立製作所や三菱電機との共催によるイベントの開催や、地域の祭りや展示会などへの人員派遣、寄付、運営への参加など	63件
寄付	募金、使用済切手およびプリペイドカードの寄付	42件
ボランティア	清掃活動、病院・介護施設などへの慰問	60件
スポーツ交流	シンボルスポーツ、専門部などによる技術指導、スポーツ大会開催など	18件
施設開放	体育館、グラウンド、テニスコートなどを地域住民、団体へ開放や工場見学の受入	16件
講座開設・講師派遣	群馬大学、茨城大学に講座開設、官公庁主催行事への講師、試験官の派遣	6件
交通安全	地域の交通安全運動への人員の派遣、参加	9件
その他	社外団体活動、インターンシップ、各拠点での献血協力など	51件

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

[上へ](#)

ステークホルダー・コメント

宇津木総監督へのインタビュー

イントロダクション

ルネサスのCSR

法令遵守を超えて

個人の尊重に向けて

環境への取り組み

暮らしやすい社会のために

ステークホルダー・コメント

RENESAS CSR REPORT 2007

識者の方々よりルネサスにいただいた貴重なご意見をご紹介します。

宇津木総監督へのインタビュー

ルネサスのソフトボール部のみでなくシドニー、アテネと2度のオリンピックで全日本チームを率い、輝かしい成績を取ってきた宇津木妙子総監督。総監督に、企業における人材育成と、アスリートの視点から見たCSRについて語っていただきました。

[←前のページへ](#) | [次のページへ→](#)

ステークホルダー・コメント

宇津木総監督へのインタビュー

[イントロダクション](#)
[ルネサスのCSR](#)
[法令遵守を超えて](#)
[個人の尊重に向けて](#)
[環境への取り組み](#)
[暮らしやすい社会のために](#)

宇津木総監督へのインタビュー

人材育成に大切なのは 言葉以上のコミュニケーション。

 ルネサス高崎女子ソフトボール部
 総監督
宇津木 妙子


ルネサスのソフトボール部のみでなくシドニー、アテネと2度のオリンピックで全日本チームを率い、それぞれ銀・銅と輝かしい成績を収めてきた宇津木妙子総監督。ルネサスにおけるリーダーシップ養成研修の講師でもある総監督に、企業における人材育成と、アスリートの視点から見たCSRについて語っていただきました。

現在は「総監督」というお立場ですが、監督と総監督とは、企業の役職で言えばどのような関係になるのでしょうか？

監督はあくまで麗華(宇津木麗華現監督)なので、私はある意味象徴的な立場。選手のことは、技術面はもちろん、モチベーションの維持などメンタル面も含めて全て任せてある。ただ、私しか気付かないことを言わせてもらうときはあります。私と麗華は、指導者としてはタイプが異なる。当然選手に関する考え方、気付くことも違ってくる。それで、お互いに補完し合うようにできればいいと思っています。

そうすると総監督が「会長」、監督が「社長」に例えられそうですね。

そう例えてもいいかもしれない。麗華には麗華の考えとやり方がある。私にも自分の考えとやり方がある。意見のぶつかり合いもチームのためには必要。でも、今はチームが結果を出せているし、非常にいい状態ということもあるので、監督交代もスムーズに進んだと思っています。



総監督がはじめてルネサス(旧日立高崎)のチームを預かったときは、いかがでしたか。

難しい時期でしたよ。女性監督は、ソフトの実業団では初。たぶん会社としてもチャレンジだったでしょう。半導体事業には波があるので、業績の伸びない時期に励みになるようなチームを作って欲しいと言われました。であれば、なおのことチーム自体が会社や組織の視点で運営されているのはダメ。確かに当時も試合があれば社員は応援に来ていましたが、「かり出されている」に近い状況。まず、これを社員一人ひとりが自発的に心から応援できるチームに、社員が本当のファンになってくれるチームにしなければいけないと思いました。

スポーツに限らず全ては人です。大事なものは人。人の視点で考えなければ、いいチームは育たない。そこで私はチーム内のルール作りから始めたわけです。挨拶、時間厳守、整理整頓、相手への気配り・目配り・思いやりなど、言ってしまうとごく当たり前のもの。でも、例えば、私は挨拶で選手の体調から心の動きまで読み取れます。それがコミュニケーションの入口になり、その選手をよりよく知ることができる。そして選手には、応援に来てくれる人の立場にたって考えろと教えてきました。結果を残すことも大事。でも気の抜けたプレーを見せられたら応援に来て人はどう思うか、社員の応援に自分は一生懸命に答えているかという意識です。

それは企業の人材育成にも当てはまりますか？

同じですよ。リーダーの人たちに聞きたいのは、人を見て育てているかということ。部下とのコミュニケーションが大事だと頭でわかっていても、それが実践できているか。「なにか話した」ことでコミュニケーションをとった気になっていないか。人は誰でも、自信がないときは下を向いたり、目をそらせたりしますね。相手を真つすぐ見返せない。逆に自信や興味があるときは、自然に体が前へ前へと出てくるもの。顔も真つすぐに相

手を見つめ返してきます。そういう無意識の態度を見逃さないで欲しい。私は、言葉よりも選手のそうしたところをしっかりと見てきた。また、そうした態度で自分の監督としての自信を選手に見せてきました。コミュニケーションとは、本来そういうものだと思いますよ。

最近「個性や多様性の尊重」が叫ばれ、昔のように一律の厳しい管理が難しくなったように思うのですが…。

個性や多様性を尊重するのはもちろん大切なこと。ですが、むしろ指導する側の人間がそう決め付けてしまっていますね。「今は、こういう時代だから…」と。そして、それを言い訳にしている。でもそうじゃない。人材育成の中でも「教育」の部分、先ほどチームのために挨拶など基本的なルールづくりから入ったお話をしましたが、そうしたルールの部分は、しっかりと教え込むことが大事。これは時代や価値観の問題ではないはずです。

それに、「教える」ことで身につくのは結局そうした基本的なことだけ。そこからさらに成長へと踏み出すためには、社員や選手本人が、自分がどうすべきか自ら「気付く」ことが必要になります。人材を育てたいと思うのなら「教える」のではなく「気付かせる」。上司ができることは、本人が気付くための手助けをすることです。本人が気付けない限りは、いくら口で教えたところで身につかない。自分は何ができて、何ができないのか。自分が他人に負けないことはなにか。それに気付いた選手はグンッと伸びます。それは若手社員も同じことだと思います。

では、育成される立場にある側が大事なことは何ですか？

それは自分が最も優れている部分をしっかりアピールすることでしょう。「自分が他人に負けないことはなにか」を自分自身で理解し、それをしっかり上の人間にアピールすることですね。それと、自分なりの目標や目的を持つ。これも肝心なこと。ソフトボールで選手が第一に目標とするのは「レギュラー」になることです。でもDP(指名選手)を入れてもレギュラーになれるのは最大10人。じゃあ、そこから漏れてしまったら目標・目的がなくなってしまうか。なくなるんではないですか。

ボール拾いでもいい。バット引き(打った打者のバットを片付ける役)でもいい。それが「自分が他人に負けないこと」と自分で気付いているなら、その役割で日本一、あるいは世界一になろうとすることは立派な目標です。

話題をCSRIに変えさせてください。今、企業の社会的責任や法令遵守が叫ばれているわけですが、これは「ルールを守って、正々堂々と戦う」というスポーツマンシップに通じるのではないのでしょうか。

理念としてはまさにそう。ただ、スポーツも企業活動も周囲の期待が大きくなってくると難しいことも出てきます。私が全日本を率いていたとき、シドニーでは、金メダルに近い銀を取り、世間の期待というものが一気に身近になってマスコミも寄ってきた。でも、4年後のアテネでは銅。みなさんが期待した結果がだせませんでした。世論は厳しく熱が冷めるのも早い。銀と銅、わずかな差ですが、期待が大きかった分だけ落差が大きく取られてしまったのでしょうか。

企業の不祥事があるたびに新聞やテレビがにぎわい、CSRや法令遵守がこれだけ社会の大きな関心になっているのは、企業に対する社会の期待が大きいためではないのでしょうか。

企業に不祥事があるように、スポーツの世界にもドーピングなどの問題があります。「期待には応える」「しかし絶対に不正はしない」と考えるためにはどんなことが大切ですか？

それは絶えず緊張感を持つことです。人は環境に慣れてくると、だんだん緊張感を失ってしまうもの。例えば、人が自分のために何かしてくれることも、当たり前になってしまう。手を抜いてもある程度成果が出れば、手を抜くことが当たり前になってしまう。こういう緊張感の欠如が不祥事の温床になってくるのだと思います。

自分を振返っても、やはりシドニーで銀を取ったあと、どこかで自分を見失っていたり、勘違いをしていたかもしれない。シドニーの時のように必死になってやってきたことや、初心を忘れていたかもしれない。それがシドニーとアテネの違いを生んだようにも思います。

これは、企業活動でも同じ。結果が良い時は人が集まりますが、いざ不祥事などがおこると誰もが厳しくなります。そのプレッシャーを乗り越える、あるいは悪い結果になる前に手を打つためには、順調な時ほど気を緩めず、緊張感を持続することがなりよりも大切だと思います。

環境への取り組みにしてもCSRIにしても、「難しい世の中になった」と思ってしまったら、それはただの逃げであって、言い訳に過ぎない。もっと、気持ちを入れて向き合うべきだと思います。すべてにおいて。

本日はお忙しいなか、ありがとうございました。

こちらこそ、ありがとうございました。



